

事業報告書

■モデル事業名

法人の理念である「人が心身ともに健康で楽しく生きがいを持って自宅で長生きできる手助けをする」を地域住民と共に共有し総合的継続的に実施できる体制を構築していくためのプロジェクト～スマートコミュニティの創出～

事業の進展状況

・老人ホーム入居者について

①心身の状態向上を目指す環境の創出により、老人ホーム入居者の自宅復帰

- ア) 入退去状況について（資料1）
- イ) 現在の入居者状況、待機者状況（資料2）
- ウ) 広報誌（ひとまちみらい10月号）（資料3）

シニアホームみらい鞍月は、平成27年12月15日に開設して、現在は満室の状況を維持しているところです。ホームは介護付有料老人ホームとして、2階、3階の入居者（28名）に対しては介護サービスの提供（特定施設入居者生活介護）を行い、4階の入居者は住宅型有料老人ホームとしてご利用いただいています。当ホームでこれまで70名の方の入居があり、そのうち自宅に復帰された方は6名となっています。退去者に占める自宅復帰の割合は20.6%となっております。当初自宅復帰計画では、75%を目指していたものの持病を持ったご利用者を反映してか、10名の方が看取りを希望されホームでお亡くなりになっております。現在入居されている方もほぼ、自宅復帰の希望者がおられない状況ですが、心身の維持向上を行いながら、条件がそろった際には自宅復帰につながるよう支援を行ってまいります。また、医療ニーズのある入居者への対応や看取りについても継続して行っていくこととしております。

②ボランティアコミュニティ活動の具現化による社会との接点を持続維持

- ア) 地域のボランティア（個人、団体）の受け入れ
- イ) 地域小学生との交流
- ウ) 実習生（大学生、中学生、高校生）の積極的な受け入れ
- エ) 金沢市と社会福祉法人中央福祉会による行方不明者等捜索活動連携に関する協定
- オ) 地域サロンへの出張健康講座の実施（いきいきサロン【鞍月地区】等）
- カ) 医療・介護・福祉関係者のための手話サークル（手友の会：てとものかい）創設

開設より、積極的に地域住民向けに当法人に所属している職員（リハビリスタッフ、薬剤師、フィットネス職員、介護職員等）が、地域サロンに出向いて出張健康講座等を実施してまいりました。特に鞍月地区では定期的に開催を行い、一定の認知を得られている他、併設の地域包括支援センターくらすきの依頼による健康教室やオレンジカフェ（金沢市認知症カフェ）などにも出向き、高齢者に限らず住民への健康管理方法や運動指導の実践、

認知症高齢者の方への理解や関わり方などのアドバイスなどを行っています。地域との接点を法人職員が持つことにより、ロコミで市内の別地域のサロンや地域包括支援センターへの出張もあり、圏域を越えて介護予防、病気予防への啓発に貢献してまいりました。



うさぎの会 篠笛公演 (H30.9.28)



西小学校との交流会 (H28.3.11)



明治安田生命ゴーヤの苗植え (H30.5.22)



金沢大学留学生との交流会 (H30.7.9)



地域サロン (H30.6.20)



手話サークル 手友の会

事業を軌道に乗せるために行った取り組み

- ア) 併設フィットネスとの連携（運動習慣と体力測定）（資料4：利用のしおり内「運動プログラム」）
- イ) 介護予防・日常生活支援総合事業の開始（資料5）
- ウ) コミュニティレストランでの健康セミナー開催
- エ) 自社プロテイン開発（資料6）
- オ) 職員の定着にむけた人事制度、処遇改善の実施
- カ) 障がい者雇用
- キ) 地域の児童向け将棋教室の開催「そらまめ将棋クラブ」
- ク) 無料送迎バスの運行

ホーム入居者の健康維持、向上を目的に併設フィットネストレーナーによる運動プログラムの実践を行ってまいりました。器具などは使わずに、日常生活動作に有効なトレーニング（筋トレ、転倒予防）、歩行（お散歩倶楽部）、呼吸法（ヨガ）などを日曜日以外実施しております。基本的に座位での運動であり、また、集団であるため交流も含めご利用者の方への体力作りの場としております。日々の参加を促す為、月ごとに作成する「100Dカレンダー」を配布し、各プログラムへ参加した際に、スタンプを押し積極的な参加をされたご利用者には、表彰状をお渡しして楽しくまた、継続的に参加いただけるよう取り組んでおります。



また、地域の方へ介護予防を実践するため、平成29年10月より介護予防・日常生活支援総合事業として、通所サービス（メディカルフィットネスみらい）をコミュニティフィットネスでスタートいたしました。午前、午後に10名の定員で午前に利用される方へは、コミュニティレストランで食事をしていただき、運動と食を通じて健康管理、介護予防に取り組んでいただいております。

コミュニティレストランでは、これまで生活習慣病、減薬、血糖値等の健康に関連する講座をランチセミナーとして地域住民向けに開催してまいりました。地域の特に民生委員の方や企業・団体、みらい病院健診センターご利用者の方などに多く参加いただきました。

糖質を管理してしっかり栄養をとることを啓発し、健康な体作りを提案する中で、当医療法人が監修するプロテインの開発を行いました。特にフレイルの予防に欠かせないタンパク質の摂取や認知症予防に効果があると言われていたイチョウ葉、また、鉄分でもヘモ鉄と呼ばれる吸収率の高い原料を入れた「ミライズ」は、我々の取り組みを食品を通して実践いただけるよう平成29年10月より販売を開始いたしました。

平成30年4月に職員の定着、処遇改善のため新しく人事制度を導入いたしました。職

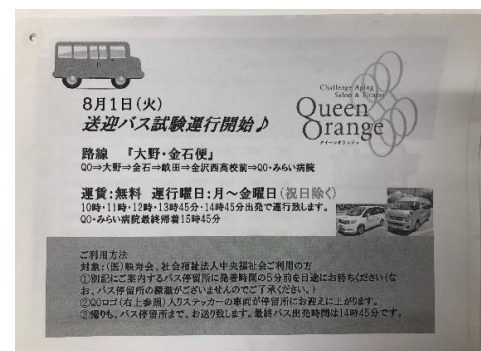
員のモチベーションアップの為、これまで年2回の賞与を4回に増やしました。単純に賞与支給を分けたものではなく、人事考課を用い全職員対象で年間所得アップを実現できるようにいたしました。また、現在持っている資格以外の医療福祉関連資格を取得した場合にも、上乘せの資格手当を支給する制度を創設するなど、職員の定着に向けた取り組みを行っております。

平成28年4月より、1名の障がい者雇用を行いました。金沢大学特別支援学校の生徒を毎年職業実習で受け入れております。採用の方もその卒業生であり、現在も就業中であり、ホーム内の清掃業務を担当しております。今後も積極的に障がい者雇用及び就労支援について取り組んで参ります。

コミュニティレストランでは毎週日曜日、地域の方向けの将棋クラブとして活用頂いております。毎週40名程の親御さん含めた子供たちが、地域のクリニックの医師が主宰する同クラブに通っています。



平成29年8月より無料送迎バスを運行いたしました。鞍月エリア（サービス等ご利用者、お見舞いの方、面会等）へのアクセスを目的に、公共交通機関の利用がしにくい大野地区、金石地区の方向けにバスの利用が出来るよう自社車両を運行させています。同地区を午前10:00～午後3時まで巡回させ、地域の方の不便を解消することに貢献しています。



事業に関連して行った地域イベント

- ア) 鞍月文化祭（地域文化祭への参加）
- イ) 地域公民館への出張講座
- ウ) 地域健康感謝祭（H28.5.22）

現時点における事業の成果

有料老人ホームでは、自宅復帰の実現できた方がおられるが、プログラムの実践をご希望される方がおられず、環境調整のみで自宅復帰を実現されておられます。また、ご入居をご希望される方のニーズが、ホームで最期までを希望される方がほとんどであり、現入居者で自宅に帰ることができる、また、自宅復帰を目指したいという方のご希望を募る必要があると考えております。また、一方で急性期病院である県立中央病院が隣接し、みらい病院も併設していることから、医療面での安心ができることを理由に早くから住み替えを希望される方や自宅を売却してホームの入居資金に充てる方もあるなど、考え方も多様化が求められていると感じています。自宅復帰には一定の実現は出来たものの、ホー

ムの空き状況やニーズによってかなり左右されると思いました。

ボランティアコミュニティは、当法人職員が地域貢献することはもとより、地域課題に対して専門職がそれを把握し、適切なサービス利用や相談窓口につなげることができることが、住民の安心安全につながっていると考えています。これまで以上に自助、公助、共助が求められる中、法人グループとして積極的に地域の中にある事業所として、継続的に取り組んで参ります。

現状の課題と課題解決の方法

地域の高齢化が進む中、健康寿命を延伸させることを課題としています。また、中でも認知症に対する法人として一層の社会的役割が求められていると考えております。健康なうちから予防という視点で日常生活を支援すること、また、認知症になっても安心して生活できる環境などを整え、より多くの方が健康を維持していける社会づくりに貢献していくことを考えております。

今後、生活習慣病予防センターを設立し、糖尿病と認知症発症リスクとの因果関係をもとに、食生活・栄養、運動習慣についてみらい病院を中心に医師、看護師、薬剤師などの専門職がチームとなり、地域住民向けに個別の指導を提案していくこととしています。同研究所では、関連するデータを基に実践事例から効果的な予防医療の実現を行う事としています。また、栄養、睡眠、薬についても指導を行い、特に高齢者のたんぱく質摂取の推進、減薬などに取り組んで参ります。

今後の見通しや展望

有料老人ホームの運営では、特定施設入居者生活介護の利用定員を開所当初の28名から36名とし、今後のご利用者の高齢化と重度化に対応すべく準備を進めております。また、運営から看取りのニーズが高く、協力医療機関のみらい病院との連携を図り、ご入居者本人、ご家族が安心してホームの利用が出来るよう取り組んでまいります。また、自宅復帰についてのご利用ニーズを探り、自宅復帰希望者に対し優先的なご利用ができるように運営上の指針を作成するとともに、地域ニーズに沿った利用を常に探ってまいります。

地域の高齢者、子育て世代、障がい者が安心して生活できるよう、ハードの整備と併せ、地域コミュニティの場を増やしていくこととしています。特に認知症による社会的な課題に対応すべくハードを創設し、予防という視点を地域に発信してまいります。現在、住宅型有料老人ホーム「メディカルホームみらい（仮称）」（54室）を平成31年10月オープン予定、平成30年度金沢市の公募である、認知症対応型共同生活介護事業所（2ユニット18名）への申請を予定しています。「医療無き介護、介護無き医療はない」との行動指針から、いずれの事業でも認知症の予防を実現するため、我々の強みを生かし、既存の病院・介護施設が一丸となり取り組んでいくこととしております。